革新的情報通信技術（Beyond 5G（6G））基金事業

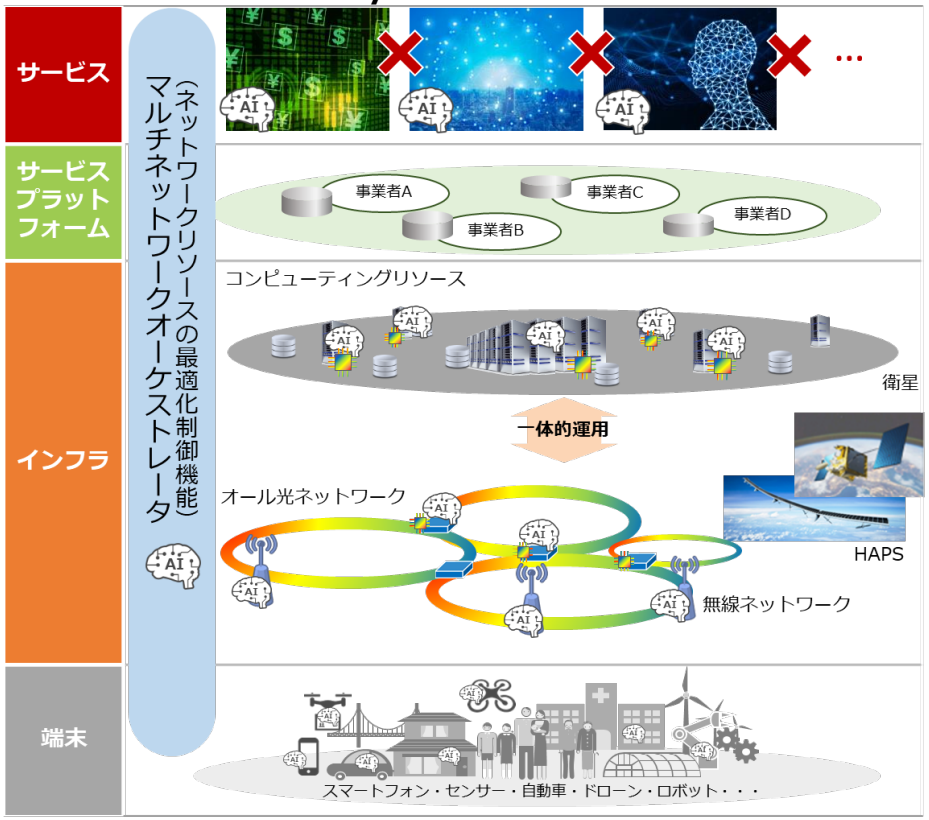
- **2030年代の導入が見込まれる次世代情報通信インフラBeyond 5Gについて、国際競争力の強化や経済安全保障の確保を図るため、我が国発の技術を確立し、社会実装や海外展開を目指す。**
- **国立研究開発法人 情報通信研究機構（NICT）に設置された研究開発基金を活用し、Beyond 5Gの重点技術等について、民間企業や大学等による研究開発・国際標準化を支援する。**

注）電波利用料財源による予算については、電波の有効利用に資する技術の研究開発に充てる。

これまでの基金の予算額：R4補正662億円＋R5当初150億円＋
R5補正190億円＋ R6当初159.4億円

合計：**1,161.4億円**

＜Beyond 5Gの全体像＞



＜Beyond 5G基金事業のスキーム＞

プログラム名等		助成・委託の別	対象	TRL※1
研究開発プログラム	①社会実装・海外展開志向型戦略的プログラム	**助成** 実施期間全体の事業総額の最大１／２を助成※2	各社の戦略的な研究開発に対する支援（競争領域における支援）	一定期間内に、TRLを一定の水準に到達させる （４年以内にTRLが概ね6、５年以内にTRLが概ね7等）
		委託※3	業界横断的な共通基盤技術の研究開発（協調領域における国主導のプロジェクト）	
	②要素技術・シーズ創出型プログラム	**委託**	中長期的視点で取り組む要素技術の確立や技術シーズの創出のための研究開発	プロジェクトの開始時点でTRL1～3
	③電波有効利用研究開発プログラム	**委託**	電波の有効利用に資する技術の研究開発	–
国際標準化活動支援		**助成** 国際標準化活動に係る費用の１／２を助成	社会実装・海外展開志向型戦略的プログラムの実施者による戦略的な国際標準化活動に対する旅費や専門人材の人件費等の支援	–

※1　米国国防総省（DoD）のTRLを参考に総務省作成。
※2　助成率は採択時の評価に応じて決定。事業年度ごとの助成率の変動を可能とするが、各事業年度の助成率の上限は2/3。
※3　原則として、政府文書において国が実施することが明確に位置づけられているもの。

＜執行イメージ＞